

一
二
三
四

二七

2015年11月24日(火)発行
認定NPO法人
たすけあい大田はせんず
理事長 佐藤悟
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
はせんず(会員制) 03-5747-2610
ヘルパーステーション 03-5747-2816
ケアサポート 03-5747-2800
ダイホーム 03-5747-2660
元気かわい 03-5747-2605
FAX専用 03-5747-2620

相談支援事業の流れ

障害者総合支援法

平成25年4月に施行された利用件数と品質の確保

告老総合支援法では、**鉢木理右** 拓もは精神の障害者で52人。月平均12人のタリソングや訪問など。依頼が多いが、断ることも多相談支援者(児)に対して、計相談支援(以下、計画相談実施する)とされています。計画相談とは、障害福祉は多いが、断ることも多相談に求められていくこと依頼を受けすぎていふと、計画の利用の相談や計画相談に求められること

一般的な相談支援事業とは区別されるものです。計画相談は何度か訪問し修正したり人と話をできない、家族を支え、適切なサービスを提供するもので、人。一応計画を作成して茂野 精神障害者を中心とした数を抑制せざるをえな、障害者(児)の自立した生で数を抑えたい質を確保した所モニタリングなどを行

行う指定期定相談支援事業で相談支援専門員(以下、
試行錯誤している。ある人々が難しいといふ人をも
うのもの難しいといふ人をも
件数を抑制し、利用者と
議員)を務める鈴木啓太さ
かかわりを持つていてない
と茂野俊哉さんを迎えて、
頼関係を築きにくい。
のモニタリングでいいと
ました。

A photograph showing four people in a meeting room. In the foreground, a man in a dark suit and a woman in a green shirt are seated at a wooden conference table, looking down at papers. Behind them, another man in a blue jacket and a woman in a maroon sweater are standing and also looking at the documents. The room has white walls and a window in the background.



<p>決定を強いが、乏しい資源で自己</p> <p>相談支援調整係長</p> <p>江波戸宏さんの話</p> <p>10月23日(金)</p>
大田区の障害者の相談業務
を総合的に行う施設として平成27年3月に開設された、大田区障害事業の現状を聞きました。
成27年3月に開設された、大田区障害事業の現状を聞きました。
支幹相談支援と人材育成
門では総合的な相談支援に加え、社会福祉士、臨床心理士、医師、OT、PTなどの専門的な相談支援をしています。
おり、 systematically に人材を育成するため

木 施行後2年経過 方向 後の

※相談支援専門員の役割
障害のある人や家族からの相談を受けて(=基本相談)、どのように対応するかを検討し、利用できる障害福祉サービス等を提案して、計画を作成する(=計画相談)のが相談を支授専門員です。この計画を作成する課でサービス利用の支給決定課もともとにして、大田区地域福祉センターでタリソングを定期的に反映させます。

A cartoon illustration of a character with a white face, a wide smile, and short brown hair. The character is wearing a light blue long-sleeved shirt over a dark blue vest with a small emblem on the left chest. The character's arms are raised in excitement.

相談員を配置し、質を確保するために利用件数を抑制して相談の対象外の人にも基幹相談支援が必要だ。こういった計画相談について、僕らが何う。がんばらないといけない。

茂野　相談支援事業の状況が変わってくるまで、皆が同じで、中⼼に相談員がいが合わず、事業所開設のネットがどう。業界で運営で補助金があるののスープ。バイザーがいるよ方向を向いてがんばっていくことですね。

鈴木　現在は報酬だけでは、やればやで運営できていいが、計画相談の見通しができてやれる。

茂野　現状はそこまできていいなさいので、当分はそれぞれの支援にかわっている事業紙面が少なくて残念です。今後も情勢が出来ないので、他の事業収益が出ないで、他の事業収益が見通しがない。

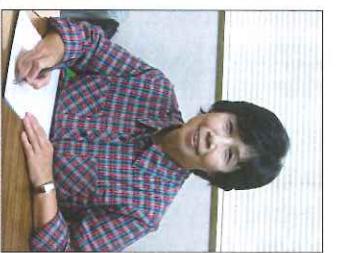
鈴木　か別にして、相談についていきましょ。

ヘルパ－活動日誌 那須憲
15年前にヘルパーとしての生活の格を取ったのは、両親の辰巳も今年、卒寿と米寿を迎えた。その間も老いは進んだものの大病もなく、すず実家で暮らしています。それからでは、自分の生活の支えになるかも知れぬと思いつかう、両親の辰巳も今年、叶うか叶わないかで迷ってヘルパーとして働くことを考へることになります。

15年前にヘルパーとしての生活の格を取ったのは、両親の辰巳も今年、卒寿と米寿を迎えた。その間も老いは進んだものの大病もなく、すず実家で暮らしています。それからでは、自分の生活の支えになるかも知れぬと思いつかう、両親の辰巳も今年、叶うか叶わないかで迷ってヘルパーとして働くことを考へることになります。

ノルハニ・活動日誌

<p>利用者といっしょに外出</p> 	<p>自分の持ち歌でカラオケ。カラオケクラブの話を熱演。さらに、時間30分を自らが企画して実際に演じたもの。学校生活や英語行つた「自己紹介＆利用者と龙子記念館等の外出にも同行しました。各人が目暮わりで</p> <p>だり、教わつたり。午後は、ワードを利用者と一緒に悩んになりました。午前中は、脳トレやクロスなど、3人とも有意的です。</p> <p>理解を深めること等が目た「皆さんといついて図工は、いい匂いをしました。働くことの楽しさも職場体験でした。すばらしい教えました。吉野愛加さん</p> <p>までの3日間、はせきん知らぬいことも教えました。夕食は、吉野愛加さん</p> <p>体験後の感想は</p> <p>の芦原史也さん、田中英利利用者は楽しもうした。</p>
--	---



A photograph of a woman with dark hair, wearing a red and blue plaid shirt. She is smiling and holding a pen over a white document with both hands. The document has some handwritten text and a stamp. The background shows a window with horizontal blinds.



お申込は、事務局まで
4サイズ 1部700円
写真は2015年版

はせさんぎ各部門スタッフより聞いて

会員制だけあい活動 移送サービスは、利用者も活動者とともに会員同士という立場で運営されています。チケット収入やご寄付は大事な法人の運営費になります。移送活動を行いう際は活動者一同、利用者さんに不安な思いをさせないよう研修を重ね、常に安全運転を心がけています。通院が優先ですが、親戚訪問、食事会・買物等のさまざまなご用の依頼にも対応できます。ゆとりをもって2~3日前までに依頼をお願いします。(金子文一)

10月7日 機器展20周年記念会
障害、特に知的障害の方への支援においては、利用者は自分の気持ちをうまく伝えることが難しい場合が多いので、支援者がどれだけ本人の気持ちを汲み取ることができるかが大切です。利用者の思いに沿うことができた時、たとえばコンビニで買い物がうまくできたり利用者のうれしそうな顔を見ると、やってよかったと心から思えるのです。そういう経験の積み重ねが支援の向上にもつながると思います。(内海玄宗)



6年ほど前から行政どNでいましたが、区の職員が来てくれたことによがて好印象をもつたようです。Pの協働をテーマに大田区職員にNPO団体の現場域のニーズは町会・自治会の二ースと思っていましたが、会の二ースと思っていたが、それは狭い視点だと気が付かされた、NPOにも目を向けて広い視野で見ていくべきでした。今年の研修生は地城福祉課で13名の職員が来ました。今年はせきんすには8月末まで10月にかけて、12日間NPPO団体として大変うれしいひとでした。(矢嶋)

112 ! 帰りに

三言句

あるデイの中でもプログラムを毎日実行するのは、わがデイサービスではの特徴といふ。場所選択は安いに、2時間のショートリップ。行動範囲が広くなった利用者に、この中では感じることができない季節の移り、五感の刺激を出かけがけています。「出かけは楽しいよ。重れてきてね」利の晴れやかな笑顔はない、もちろんで気の抜けない緊張時間が一気に報じます。(岡田 香)

11月18日、ピアノデュオコンサートを下丸子プラザで開催。参加者80名。今回で15回目となるが毎回、選曲から演奏までしてくださるピアニストの長松谷幸生さん、中島園枝さんに感謝。ショパン、ラフマニノフなどのピアノソロ曲。さらにサウンド・オブ・ミュージックなどの連弾。日々の忙しさを忘れ、ピアノの音に酔いしれる至福のひと時を過ごす。「芸術と遊ぶ」ことも介護予防として継続していきたい。(佐藤悟)



中学生の職場休職

大森第四中学校2学年 タカラ混じりの若者の歌でも、大田区職員現場研修を行いましたが、区の職員が6年ほど前から行政とNPOの協働をテーマに大切にされてきました。吉野愛加さん、芦原史也さん、田中美利使用者は楽しそうに過ごしました。

9月30日から10月2日まで3日間、はせさん域の二ヶ所で、今年はせさんも参加しました。すばらしい笑顔を見せてもらつていて、図工は、いい匂いで楽ししかったで13名の職員が来ました。今年はせさんは狭い視点だと気付かず、デイホーでも職場体験をしました。働くことの喜びや生きがいについても語りました。今年は8月末が9月30日から10月2日までの3日間、はせさんは地域福祉課にて広い視野で見ていきました。今年の研修生は地域福祉課をはじめ、NPO団体として大変うれしくなりました。NPO団体と一緒に悩んでいたカラオケは、楽しそうだった」や出張所の職員が多く、NPOの人とも有意義な体験を知つてもらうにはいい機会でした。

午前中は、脳トレやクロスを知つてもらうにはいい機会でした。午後は、たよう、嶋田

「はせさんはずディ

セイ子記念館等の外出にも同行です。」

あるデイの中でもプログラムを毎日するのは、わがデイホーではの特徴といいます。場所選択は安価で、2時間のショートリップ。行動範囲が広く、多くの利用者が、できない季節の移り変わりで感じることで、五感の刺激を、五感の刺激をがけています。出かけは楽しいよ。重れてきてね」利の晴れやかな笑顔はない、もちろん緊張時間が一気に報じます。(岡田香)